

夏の小児感染症に注意！！

～ヘルパンギーナが流行しています！～

○ ヘルパンギーナとはどのような病気ですか？

感染して2～4日してから、突然の発熱（38～40度）とどの痛みで発症し、口の中に水疱（水ぶくれのような発疹）ができる病気です。水疱は破れて痛みを伴います。発熱時に熱性けいれんを起こすこともあります。2～4日で解熱し、それにやや遅れて水疱も消えます。

ほとんどは自然に軽快しますが、まれに髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあります。

病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルス（腸管内で増殖するウイルスの一種）で、5歳以下の乳幼児がかかりやすい病気です。

○ ヘルパンギーナにかかったら？

特別な治療法はなく、症状を楽にする方法（対症療法）が行われます。

口の中に水疱ができるため、食事や水分がとりにくくなり、脱水症状を起こすことがあります。柔らかく刺激の少ないものを摂取しましょう。

○ 感染経路は？

咳やくしゃみなどによる飛沫感染や、患者の手についたウイルスが飲食物等を介して経口感染します。

回復後も、2～4週間の長期にわたり便の中にウイルスが排出されることがあるので、トイレやおむつ交換のあとは、手洗いを徹底しましょう。



感染予防のポイント

- ★ 流行時は、手洗いを励行しましょう。
- ★ 帰宅したとき、トイレの後、調理や食事の前の手洗いを徹底しましょう。
- ★ 症状がなくなっても、2～4週間は便の中にウイルスが排出されるので、処理をする時は使い捨て手袋やマスクを着用し、終わった後は手を洗いましょう。



山形県